

使ってみてみて→ハタチ?

りゅーとぴあ・劇場



りゅーとぴあ・劇場

↑UP!

定年を迎えたお父さんに、家族から素敵なプレゼントを贈りたい。もし、お父さんがカラオケ好きななら、りゅーとぴあ劇場を貸し切りにしてお父さんだけの舞台をつくってあげてみてはいかがですか? 当館スタッフが想い出深い舞台づくりをお手伝いします。りゅーとぴあ劇場は880人収容できる大きな舞台。主役はもちろんお父さん、観客は家族のみ。音響はもちろん、スポットライトもすべてお父さんの晴れ舞台を照らします。定年の記念、働き続けたご褒美に、舞台で思いっきり歌うことができれば、きっとお父さんも大感激。家族にとってもきっと忘れられない思い出になりますよ。

定年記念 オンステージ≥58,250円

例:平日10:00~11:30の貸切ショーとしたら *楽曲を収録したテープ・MD等が必要になります。

劇場利用(午前区分)	27,000円
照明セットA	14,400円
音響セットB	10,900円
効果機器(エコーなど)×2	1,000円×2

施設利用お問い合わせ TEL.025-224-5621
(9:30~18:00)

*上記金額は最小限の設備で算出したものです。正確な料金は細かな内容・利用条件でわたりますので、ご相談ください。



交通のご案内

- 新潟駅より車で7分
- 関越自動車道/磐越自動車道新潟中央I.C.より車で18分
- 新潟駅万代口よりバスで「信濃町」行で「市役所前」下車徒歩7分
「新潟県庁」行で「陸上競技場前」下車徒歩5分
「昭和大橋経由・入船町」行で「白山公園前」下車徒歩2分
- 新潟空港より車で27分

白山公園駐車場のご案内

- 白山公園駐車場A,B,C,D合わせて約600台
- ※身障者用駐車場スペースを用意しております。
- ※りゅーとぴあには専用の駐車場がありません。なるべく公共交通機関をご利用ください。なお、自家用車は白山公園駐車場(有料30分100円)をご利用いただけますが、混雑する場合もありますので、あらかじめご了承ください。

駐車場のお支払いは、プリペイドカードがたいへん便利でお得です。2,000円のカードで3,000円分駐車場をご利用いただけます。りゅーとぴあ1Fの自動販売機でお買い求めください。

開館時間／9:00~22:00 休館日／第2・第4月曜日(祝日の場合は開館・翌日休)

感動は自由席



りゅーとぴあ
新潟市民芸術文化会館

RYUTOPIA MAGAZINE vol.3 2005年10月20日発行

発行／りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 〒951-8132 新潟市一番堀通町3番地2(白山公園内)
TEL.025-224-7000(事業課) <http://www.ryutopia.or.jp> (←リニューアルしました☆)

CONTENTS

SPECIAL ISSUE：能 Lessons

観世流能楽鑑賞教室リポート

interview:能楽師・観世芳宏

能の豆知識 abc

Noism05 Special Report

SPOTLIGHT interview「桐竹勘十郎」

THE PERFORMER—表現者たち—

感動の余韻 IMPRESSION VOICE

ENTERTAINMENT CALENDAR

アートを楽しむエンタメマガジン

りゅーとぴあマガジン

vol.3

感動は自由席
RYUTOPIA MAGAZINE

能のフルコース、召し上がり。

能楽師の案内で初めての方でも能を楽しむことができる。そんな絶好の機会が能楽鑑賞教室。市民の舞の発表から解説、装束着付の実演、謡の稽古、そしてダイジェスト上演まで、一度で能のフルコースを味わうことができます。今回は9月3日(土)に行われた観世流能楽鑑賞教室を誌上でリポート。次はあなたのご参加をお待ちしています。



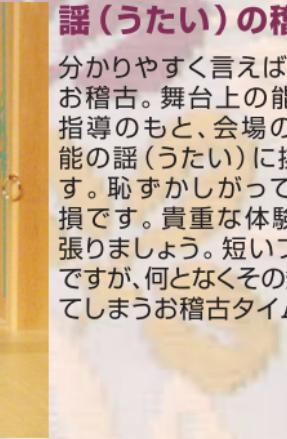
能楽師による解説
能を解説してくれるのは、本当の能楽師です。能を初めて観に来るとの注意事項から、面(おもて)や装束、小道具の話、基本的な能の所作などをユーモアを交えながら教えてくれます。堅苦しい能のイメージが一変するひととき、興味がさらに湧いてきます。因みに解説は第一回は観世流の関根祥人さん、第二回の解説は観世芳宏さんでした。



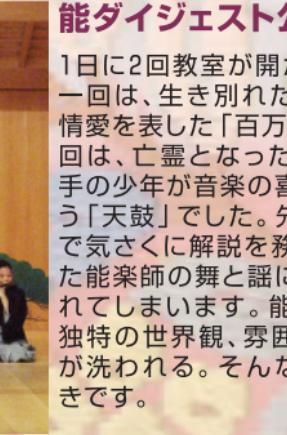
「舞の習い」発表
能楽鑑賞教室、スタートはこの日のために3ヶ月間にわたり稽古を積んだ市民の皆さんが檜舞台で舞の発表を行いました。小さなお子さまから高齢の方まで、凛とした姿勢で熱演です。謡、舞、真剣な表情に客席も息を飲んでしまいます。



仕舞(しまい)
仕舞とは、装束を付けずに謡で舞うこと。能舞台上では、その日のダイジェスト公演曲(演目)の舞のみどころを能楽師が舞ってくれます。装束をつけると隠れてしまう姿勢や動きがよく分かります。



謡(うたい)の稽古
分かりやすく言えば、うたのお稽古。舞台上の能楽師の指導のもと、会場の全員が能の謡(うたい)に挑戦します。恥ずかしがっていては損です。貴重な体験に声を張りましょう。短いフレーズですが、何となくその気になつてしまふお稽古タイムです。



能ダイジェスト公演
1日に2回教室が開かれ、第一回は、生き別れた母子の情愛を表した「百万」。第二回は、亡靈となつた鼓の名手の少年が音楽の喜びを舞う「天鼓」でした。先ほどまで気さくに解説を務めていた能楽師の舞と謡に圧倒されてしまいます。能の持つ独特の世界観、雰囲気に心が洗われる。そんなひとときです。



まずは雰囲気を楽しむことから。

能は難しい?能は分からない?決してそんなことはありません。能は誰もが楽しめる総合芸術です。では、どんな風に能を楽しめばいいのか、そのヒントをシテ方観世流二十五世宗家観世左近(元正)次男であり、観世流能楽鑑賞教室でもご協力いただいた観世芳宏氏にうかがいました。

観世芳宏 | Yoshihiro Kanze

シテ方観世流能楽師。昭和36年(1961)生まれ。二十五世宗家観世左近(元正)次男。財団法人観世文庫常務理事社団法人観世会副理事長



能のルーツを知る

そもそも能というものは五穀豊穫に感謝する神事の儀式がその発端でもあると言われています。それが室町時代の足利幕府によって、舞踊の要素の強かった田楽や、演劇の色彩の濃かった猿楽などと統合され、今「能」というスタイルが確立された、いわば総合芸術なのです。ですから、踊りの要素や演劇の要素、音楽など様々な楽しさが混在する芸術なのです。よく、伝統芸能というと、歌舞伎などと比較する方もいますが、歌舞伎は江戸時代に出てきた演劇的な要素の強いもので、すでにその頃には能は完成され、芸術性の高いものになっていました。歴史的には能のほうが古い芸能なんですね。

伝統芸能を受け継ぐ流派

能は面(おもて)をつけるシテ役と、面をつけないワキ役、それに謡や大鼓、小鼓、笛といった楽奏がありますが、シテ役を継承し続けているのは、私たちの観世流を含めて全部で5流派あります。これは、徳川幕府時代に認定された流派で、同じシテ役でも流派によって、

それぞれ特徴が異なっています。観世流の特徴としては舞い方や音楽などの傾向が他の流派より華やかなイメージがあると言われています。女性っぽいイメージが強いのかもしれないですね。一方、他の流派はどうちらかというと、もっと武士的なイメージが強く、男性的だったりします。それぞれの流派を見比べてみるのも能の楽しみ方のひとつかもしれません。

能舞台全体を覆う緊張感が能の醍醐味

能の素晴らしい点は、何と言っても舞台上の緊張感でしょうね。他の演劇などと違って能は極端にシンプルだと思ふんです。つまり舞台に上がる登場人物が極端に少

ない。シテとワキ、それに謡、楽奏ぐらいのものです。ほとんどひとり芝居のようなものです。ですから、ボロが出やすいというか、失敗すると目立っちゃうんですよ。だから、舞台の上の演者は常に緊張感をもって舞台を務めています。曲(演目)にある感情をすべてひとりで表現するというやりがいもありますが、舞台から出る緊張感が、能舞台全体を覆い、演じる側、観る側を一体化させた独特の研ぎ澄まされた能の雰囲気を醸し出します。それが能の世界観だと思うんですよね。

シェイクスピアと能の共通点

かといって、能は他の芸能と全く異質のものでもないんです。私はシェイクスピアが好きで、舞台を観たりもするんですが、能とシェイクスピアにはとても似ている点があると感じています。端的な例が、シェイクスピアでは幕間に道化師が出てきて、これまでのあらすじやストーリーの内容を細かに説明するのですが、能の場合でも狂言師がそれと同じような役割を果たしています。それに、状況などを細かに説明するシェイクスピアの長い台詞や全体的なしきみもとっても似ていると思うんです。ですから、シェイクスピアが好きな人なら、能も必ず興味深く観ることができるでしょう。

非日常をあえて楽しむ

初めて能を観る際、敷居が高いとか、難解だとか思われる方も多いと思います。しかし、そんなことは最初は意識しなくてもいいと思っています。例えば、女性の方なら、着物や浴衣を着て出かけてみたいと思ったら、その方法として能を選択してもらってもいいんです。お気に入りの着物を着て、和の雰囲気を楽しむ事が目的もいいんです。そして、能だけではなく、観終わった後に食事に「和食」を楽しんだり、その日は徹底して「和

を楽しむのがおすすめです。身なりはできれば着物でなくてもきちんと能にお出かけになるといいですよ。普段着ではなく、きちんとすることで、気持ちまで変わってきますし、何かをじっくり観るという気持ちも湧いてきます。忙しい昨今において、腰を据えてじっくりと「和」に親しんだり、何かに取り組んだりすることってなかなかないと思うんです。非日常をあえて楽しむことで、とても良い気分転換になります。

分かりやすいのは芝居仕立ての曲(演目)

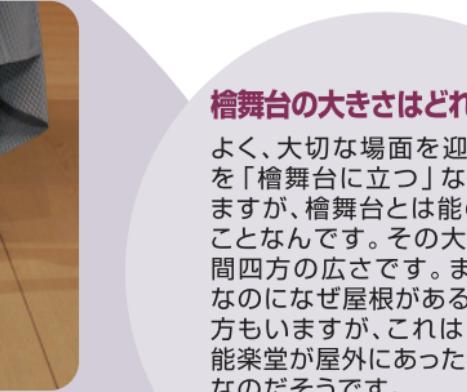
能を初めて観る。そんな方には、芝居仕立ての曲(演目)が分かりやすくていいと思います。親子の生き別れを描いた「百万」や、義経一行が平泉へ向かう「安宅」などはおすすめです。特に「安宅」は能にしては珍しく登場人物が12人にも上り、舞台を彩りますので、楽しめるでしょう。ただ、ちょっと欲を言わせてもらえば、ご覧になる前に、曲(演目)のあらすじや、能の基本的な所作などを頭に入れておくだけで、すごくよく分かるようになりますし、興味のポイントも多くなるでしょう。新潟はもちろんですが、今では能をもっと親しんでもらおうと、全国各地で鑑賞教室やワークショップ仕立ての公演も行っています。是非とも能舞台に足をお運びになってください。



難しいと思われる能も、
ほんのちょっと予習をしていくだけで、
ぐんと分かりやすくなったり、
観るポイントが増えたりするものです。
能楽師さんから教わった豆知識を
そっと教えちゃいます。

舞台ではすり足が基本

足の運び、能の場合は常にすり足が基本になります。不要な音を立てないことと全体の動きをきれいに見せるためにそうするのですが、そもそもが幽霊の話のために、あたかも「足」がないように表現することも含まれています。膝、腰を含めて運びは常にまっすぐ。これはきれいな歩き方の参考にもなります。



つま先を微妙に動かし、上半身を動かさずに歩く。それが重要。

檜舞台の大きさはどれくらい?

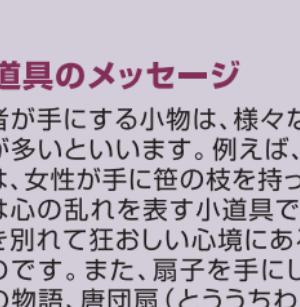
よく、大切な場面を迎えることを「檜舞台に立つ」などと言いますが、檜舞台とは能の舞台のことなんです。その大きさは三間四方の広さです。また、屋内になぜ屋根があるのと思う方もいますが、これはそもそも能楽堂が屋外にあった時の名残なのだそうです。

能面は左右非対称!
意外と知られていないのが、能面が左右同じではないということ。能は幽霊を題材にした曲(演目)が多く、靈の苦悩や喜びをひとつの舞台で表すために、左右微妙に違う表情になっているのです。ちなみに向かって右が苦悩、左が喜びを表しているそうです。

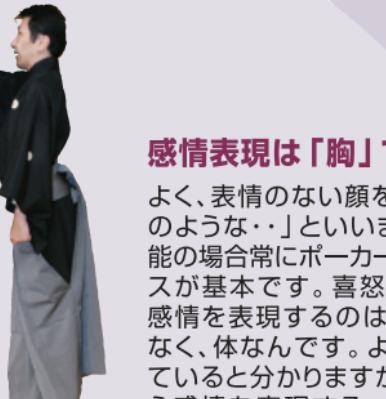


日本のいずれかだけをじっと見ていると、表情の違いがなんとなくわかりますよ、ね。

小道具のメッセージ
演者が手にする小物は、様々な意味を含んだものが多いといいます。例えば、「百万」という曲では、女性が手に笹の枝を持って登場します。笹は心の乱れを表す小道具で、女性は子どもと生き別れて狂おしい心境にあることを示しているのです。また、扇子を手にしている場合は日本の物語、唐団扇(とううちわ)を手にしている場合は中国の物語というように、小道具の持つ意味も知れば知るほど奥が深そうです。

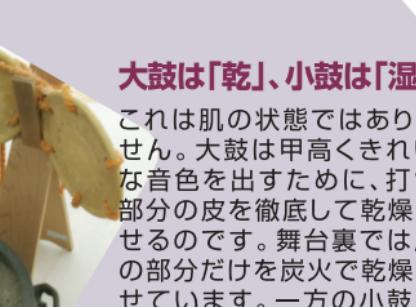


日本の物語を示す扇子、物語の種類によって色も柄も変わる点も興味深いところです。一方の唐団扇は、相撲の行司軍配に似た形が特徴です。



横から見ると、胸を張って、お尻が突き出しているのが分かります。左は、小さな悲しみを表現する動き、右は、左手で面をかくすような仕草で大きな悲しみを表しています。

大鼓は「乾」、小鼓は「湿」
これは肌の状態ではありません。大鼓は甲高くきれいな音色を出すために、打つ部分の皮を徹底して乾燥させます。舞台裏では皮の部分だけを炭火で乾燥させています。一方の小鼓は逆に湿り気がないとまろやかな音色が出にくくなります。上演中でも時々、打つ部分に息を吹きかけたり、時には唾で湿らすこともあります。



写真は楽屋でのひとこま。炭火で大鼓の皮を乾かし、甲高くきれいな音色が出るようにしています。

感情表現は「胸」で行う
よく、表情のない顔を「能面のような…」といいますが、能の場合常にポーカーフェースが基本です。喜怒哀楽の感情を表現するのは顔ではなく、体なんです。よく観ていると分りますが、胸から感情を表現する。それが能の動き。まさに胸からわき出る感情なんですね。

能は常にハッピーエンド

すべての曲がそうというわけではないのですが、大体の場合、能のあらすじはハッピーエンドなのだと。静けさやもの悲しい観が強い能ですが、最後は円満に終わると分かると、ちょっと見方も変わってきますね。

会場:りゅーとびあ・能楽堂



冬の能楽鑑賞会(宝生流) 2005/12/3(土)

- 第1回 13:00開演
能「半蔀(はしまと)」高橋 章 他
第2回 16:30開演
能「紅葉狩(もみじがり)」武田孝史 他
▼料金 S席一般4,000円(学生2,000円)
A席一般3,500円(学生1,500円)

能楽基礎講座

- 第3回 2005/11/19(土) 14:00
能楽入門④「能、そのリズム」
講師／山崎有一郎 聞き手／阿部聰
第4回 2006/3/4(土) 14:00
「ちまたのうわさ2」 講師／馬場あき子
▼料金 全席自由各1,000円

能楽座 新潟公演 2006/1/29(日)

- 第1回 12:00開演
能「江口」(観世流) 観世榮夫 他
第2回 15:30開演
能「小鏡冶」(観世流) 梅若六郎 他
▼料金 S席5,000円 A席4,500円
学生S席3,000円 学生A席2,500円
※11/12(土)発売

▼ご予約・お問い合わせ

りゅーとびあチケット専用ダイヤル025-224-5521

Noism⁰⁵

1st season to 2nd season Special Report



Triple Billのツアー公演で、2004年から2005年にかけてのファーストシーズンを終えたNoism05。向かえるセカンドシーズンでは、コンテンポラリーの本質をさらに求める新作と新たに加わった4人のダンサーに期待がかかります。新しい局面を迎えたNoism05の最新リポートです。

Triple Billでは、ひとりのダンサーとして舞台に上り、3人の振付家によって身体表現の可能性に挑んだ金森さん。初の試みとなる舞台、そして、ファーストシーズンを振り返ってもらった。

ダンサーのメンタリティが 見えたTriple Bill。

—純粋にダンサーとして参加してみて、Triple Billの稽古、舞台を通じて一番感じたことは何ですか。

まず、メンバーがダンサーとして何を求めているのかが分かりました。それぞれが個性を持ったダンサーたちですが、彼らの価値観や志向、それに繊細なメンタリティに触れることができたのは大きかったと思います。同時に僕の中の価値観や意識とのギャップも発見できた。いろいろな刺激があり、とてもいい勉強になりました。

—3人の振付家とのコラボレーションも大きな注目を集めました。

僕自身、外部の振付家にお願いすることで、これまでの意識が覆ることもありました。例えば僕の中のメンバーへの固定概念が外れたこと。メンバーそれぞれに新たな面が見えたりして、面白かった。3つの作品に関しては、黒田さんの「ラストパイ」ではフォーカスが僕に極端に集中するものだったので、異様なインパクトはあったと思いますが、近藤さん

の作品のようなコミカルなものでNoismの違った一面が打ち出せたり、収穫は多かったです。

—客席の反応はどのように伝わっていましたか。

お客様自身がとてもオープンな感じになってきているように思いました。これまでのNoismにはなかったような、くだけたイメージでも受け入れてもらえたし、ストイックな面でも評価してもらっていると感じました。拍手のウェーブは僕を含めてメンバー全員、ひしひしと感じています。

走り続けた1st season。

—2004年からのファーストシーズンを終え、今振り返って感じることは何ですか。

そうですね、とにかくNoismというプロジェクト自体が日本初の試みであること、僕自身がその真ん中で機能すること。あらゆることが初めてのことばかりで、とにかく無我夢中で突っ走ってきたという感じでしょうか。ただ、スタート当初に描いていたもの、これぐらいはやりたいなど感じていたものはできたと思うので、後悔はないし、むしろ達成感のほうが大きいと思います。

—プロジェクトスタート当初、一番困難だったことは。

あえて言うなら、メンバー全員を理解することが一番難しいことでした。それでのパフォー

マンスはもちろんですが、それぞれの方向性やキャラクター、価値観にいたるまで、完全に理解するなんてことはできないでしょうけど、一応は把握しておかないと演出や振付にも支障が出ます。このプロジェクトを成功に導くためにも、かなり考えましたね。

—新潟での活動を通じて感じたことは。

新潟への思いは日を重ねるに従っておおきくなってなってきています。これは僕だけの話ではなく、メンバー全員も自然に感じている部分でしょう。これまでの公演、それぞれ内容が違いますが、それらに対する拍手のトーンの変化を感じています。それに、何よりこの街に暮らしていて、街を歩いていると「あ、Noismの人だっ」と声をかけられることも少なくありません。ステージの上ではもちろんですが、日常の中でも新潟での愛着が芽生えています。だからこそ、恥ずかしいことはできない。プロのダンサー、カンパニーとしてもっと愛される集団になりたいと思っています。

—セカンドシーズンのヴィジョンは。

ファーストシーズンは、無我夢中で走り続けた期間で、ある意味周囲の目も「許してもらえる」部分があったと思うんですね。でもこれからはもっと本質が求められてくると感じています。プロのダンスとはどういったものなのか。肉体・精神両面においてさらに研鑽が必要でしょうね。メンバーの間でも「自分」のことだけを考えるより「グループ」としてお互いのことを考える意識も目立ち始めています。新しいメンバーも加わったことをさらにプラスに転じられるように、プロのダンスとは何か、それを具現化するNoismとは何か、という点にフォーカスして活動を洗練させていきたいですね。

Noism05
1st season to 2nd season
Special Report

NEW WORK カラダ。ダンスの根源へ—

8 |

9月15日、りゅーとぴあ劇場ホワイエに記者発表の場が設けられた。新作の大きな特徴は、Ton That An(トン・タップ・アン)という国境を越えた音楽で活躍するアーティストとのコラボレーションだ。NoismがTon That Anと出会ったのは、レジデンシャルカンパニーとして正式にスタートする直前、project Noismとしてヨーロッパ公演を行った時だという。「彼の音楽にはこれまでにないタイプの刺激が満ちていた」演出・振付を行う金森さんは、当時を振り返りながら公演のアウトラインを説明した。

気になるダンスの内容はというと。作品主義の弊害とまでは言わないが、金森さんは昨今の「これもあり、それもあり」的な見地から認められすぎるダンス作品の多さに警鐘を鳴らす。だからこそ、ダンスの根源に光を当てる使命がある。そんな気持ちが強いですね

ダンスより、それ以前のカラダにこだわる。金森さんに言わせれば「観るお客様にとってみれば、それなりの覚悟が必要になるかもしれません」と笑う。すでにイメージはあるというが、今はまだそれを言える段階ではなく、タイトルすら未定のままだ。カラダという言葉からイメージを膨らませ、観客もそれぞれの視点で「取り組みたい」舞台になりそうだ。

ここまで追い込むベースにあるのは、時代と芸術の成熟期

を超えて新しい何かをつくり出さなければならないという強い使命感にある。

「いかに面白くとか、びっくりするような、みたいなことは既にやり尽くされた感があるんですね。これはダンスに限ったことではなく、芸術全般においてそうだと感じています。21世紀に突入して、これまで様々な手法で芸術を豊かにしてきたアーチストたちからバトンを受け取って、今度は僕らが新しい主張や価値を創っていくなければならないと思うんです。

プロのダンス、その根源となるカラダへのこだわりは、僕なりの主張であり、古典回帰の中から現代の新しさを探ること

でもあります。僕らは日本で唯一のプロダンスカンパニーです。

だからこそ、ダンスの根源に光を当てる使命がある。

そんな気持ちが強いですね

ダンスより、それ以前のカラダにこだわる。金森さんに言わせれば「観るお客様にとってみれば、それなりの覚悟が必要になるかもしれません」と笑う。すでにイメージはあるとい

うが、今はまだそれを言える段階ではなく、タイトルすら未定

のままだ。

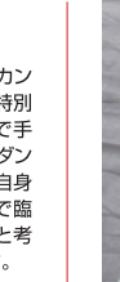
カラダ

という言葉からイメージを膨らませ、観客もそれぞれの視点で「取り組みたい」舞台になりそうだ。

ここまで追い込むベースにあるのは、時代と芸術の成熟期

NEW FACE

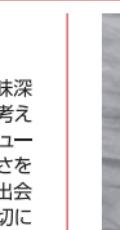
セカンドシーズンと同時にNoism05に新たな個性が加わった。
4人の新しいダンサーたちにフォーカス!



高原 伸子 Nobuko Takahara 1979年 東京都生まれ
5歳より松延まき子のもとでクラシックバレエを学ぶ。高校卒業後、昭和音楽芸術学院バレエ科を経て、英国Rambert Schoolに留学。Ross Mckim, Christopher Bruce, Christian Bang Krogh, 京野雅美、Javier de Frutos, Robert Cohan, Warren Adams, Fredrik Ashtonなどの作品を踊る。



中野 綾子 Ayako Nakano 1985年 東京都生まれ
6歳からモダンダンスを小野田百々代に師事。9歳から小野正子バレエスタジオに所属。2004年4月からNoism研修生として1年間研鑽を重ね、セカンドシーズンから正式ダンサーとして参加。



宮河 愛一郎 Aiichiro Miyagawa 1979年 埼玉県生まれ
高校卒業後、マサズミ チャワのワークショップでモダンダンスに出会う。19歳の時、ALVIN AILEY Schoolに留学。在学中にCity Centerでエイリーの作品「Memoria」で初舞台に立つ。その後、ロナルド・K・ブラウンなどの作品で踊り、2000年にはGAPのTVCに出演。Nathan Trice RITUALS、Kevin Wynn Naini Chen Dance CO.に所属し、アメリカ公演、海外ツアーに参加。2003年一年契約で劇団四季ミュージカル「アイダ」に出演。その後、NYへ戻りShen Wei Artsに所属。リンクセンターフェスティバルに参加、State of Theaterで公演を行う。



山田 勇気 Yuuki Yamada 1981年 北海道生まれ
北海道教育大学函館校卒業。同校のモダンダンスクラブで清水典人に師事。主に函館で様々なダンスを踊り、学び、創作活動を続ける。清水典人自主公演には2002年の初回から毎年参加。2004年上京し、能藤玲子、前沢亜衣子、山田秀明らの作品に出演する。

Noism05 「新作」

演出・振付=金森穣 音楽=Ton That An
衣裳=金森愛 出演=Noism05

新潟公演 2005年11月25日(金)19:00開演／26日(土)17:00開演
／27日(日)15:00開演
りゅーとぴあ・劇場
全席指定5,000円 学生2,500円
ご予約・お問い合わせ:りゅーとぴあチケット専用ダイヤル
025-224-5521

東京公演 2005年12月23日(金・祝)19:00開演
／24日(土)16:00開演／25日(日)15:00開演

新国立劇場中劇場
S席5,500円 A席4,500円
チケット取り扱い:電子チケットぴあ/ローソン/イープラス
お問い合わせ:カンパセーション 03-5280-9996
富山公演 2005年12月4日(日) オーバード・ホール
札幌公演 2005年12月15日(木) 札幌市教育文化会館 大ホール
大阪公演 2005年12月9日(金) シアター・ドラマティ
仙台公演 2006年1月13日(金) 仙台市民会館大ホール

参考者募集中!
子供のためのダンスワークショップ
第3回 11月12日(土) 16:00～18:00
講師/佐藤菜美 (Noism05)
定員:30人
対象:新潟市在住の小学生、未経験者可
会場:りゅーとぴあ・スタジオ

参加費:無料 応募〆切:11/5(土)必着
応募方法に関しては、下記にお問い合わせください。
<申込先・お問合せ>
りゅーとぴあ事業課
TEL025-224-7000



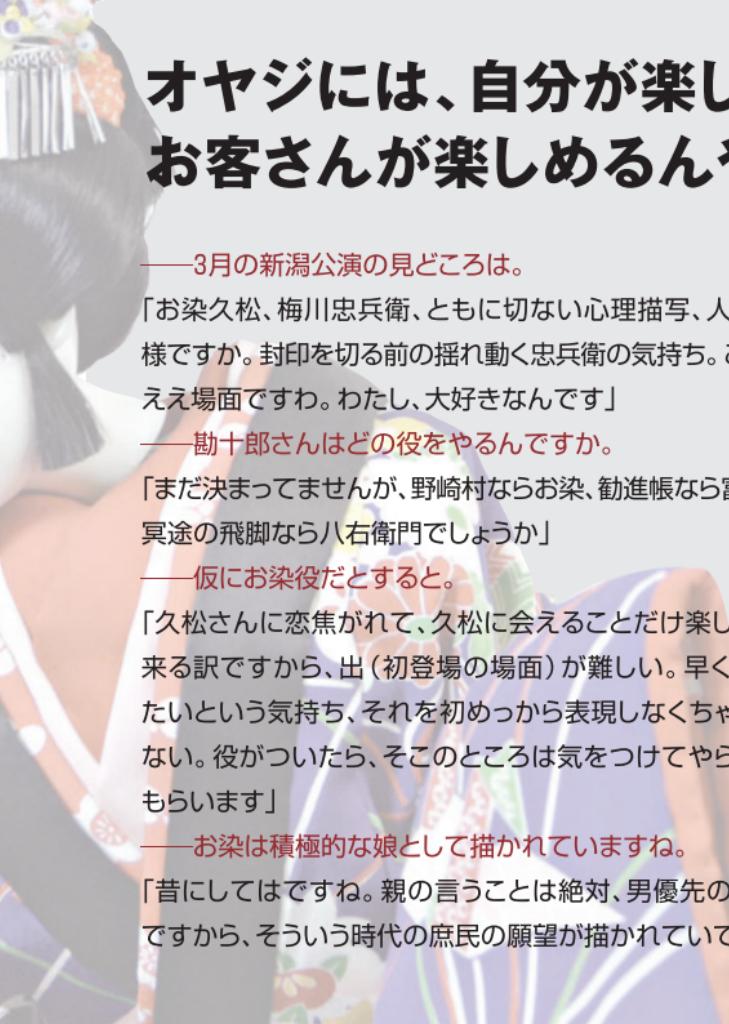
SPOTLIGHT INTERVIEW

人形遣い 文楽 桐竹勘十郎

人形浄瑠璃は世界無形遺産にも登録された伝統芸ですが、ただ受け継ぎ、後世に渡せばいいというものではありません。型は大事ですが、解釈・演出などに独自の工夫を加えて、育てていかなければなりません。

桐竹勘十郎(Kanjuro Kiritake)

文楽・人形遣い。昭和28年大阪生まれ。昭和42年、文楽協会人形部研究生となり三世吉田義助に師事、吉田義太郎を名乗る。43年文楽協会技芸員となり「阿古屋夢貴」水奴で初役。平成15年亡父二世桐竹勘十郎の名跡を継ぎ三世桐竹勘十郎を襲名。平成7年芸術選奨文部大臣新人賞、平成11年第18回国立劇場文楽賞文楽優秀賞など受賞多数。



オヤジには、自分が楽しめなんならどうして
お客様が楽しめるんや、楽しめとよう言われました。

—

3月の新潟公演の見どころは。

「お染久松、梅川忠兵衛、ともに切ない心理描写、人間模様ですか。封印を切る前の揺れ動く忠兵衛の気持ち。これ、ええ場面ですわ。わたし、大好きなんです」

—

勘十郎さんはどの役をやるんですか。

「まだ決まってませんが、野崎村ならお染、勧進帳なら富樫、冥途の飛脚なら八右衛門でしょうか」

—

仮にお染役だとすると。

「久松さんに恋焦がれて、久松に会えることだけ楽しみに来る訳ですから、出(初登場の場面)が難しい。早く会いたいという気持ち、それを初めっから表現しなくちゃならない。役がついたら、そのところは気をつけてやらしてもらいます」

—

歌舞伎ですと化粧して衣装つけていくうちにだんだん役になっていくと言いますが。

—

お染は積極的な娘として描かれていますね。

「人形の場合も衣装つけて人形拵えする時間はあるんですが、15、16の娘さんの気持ちになるというのはね。まあ、今では自然に出来るようになりました。舞台下駄はいて胴串

—

だから当り狂言になったのかも。

「そうですね。逆に男は頼りないんですわ(笑)。はっきりしない。久松なんかそうでしょう」

—

勘十郎さんというと立役というイメージなんですが。

「どっちもやらしてもらっていますが、娘役は照れるんですね。若い頃はなんや恥ずかしいというのがあって、それが抜けるまでは大変でした」

—

それは稽古しているうちに抜けるんですか。

「いや、人形持って小幕が開いて、お客様の前に出て行く時はもう役になってないといけない。出遣いは顔が見えますから、なお大変なんです」

—

歌舞伎ですと化粧して衣装つけていくうちにだんだん役になっていくと言いますが。

—

人形が歩く時は人形遣いも歩き、お辞儀している時は人形遣いも少しお辞儀していますね。

「表情は変えませんけどね。若い頃はどうしても気が入るときも、表情に出やすい。師匠方は人形がもだえ苦しんでいても、



技術的には一応のレベルに達したのでは、と。 今後は「性根」、精神的な部分をもっと深めていきたい。

汗もかかず表情も変えずすっとしてやってます。あくまでも芝居するの
は人形ですから、そうでなくちゃいけないんですけど

——人形に魂が乗り移って、人形遣いは逆にカラッポになっているよう
感じでしょうか。

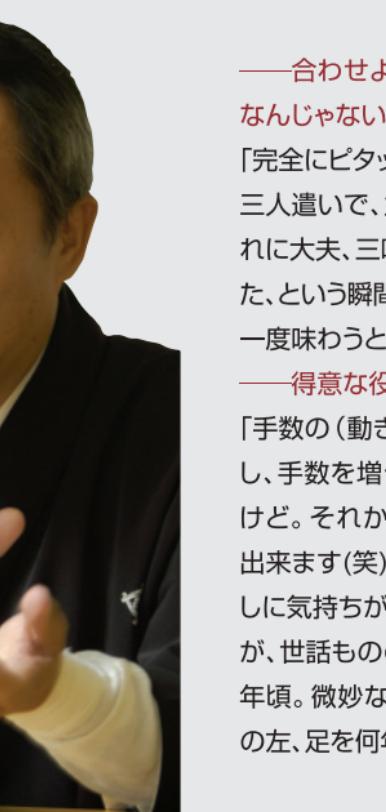
「あれは二通りあるんです。役になりきることは非常に大事なんですが、
どこか冷静に冷めていいといけない。どちらも必要なんです」

——義太夫の語りを聞いてから動くのでは間が悪くなりますよね。どうやつ
て合わせるんですか。

「義太夫節は語れませんけど、ほぼ全部頭に入っています。そうでないと人
形は遣えません。どちらがどちらに合わせている訳ではないんですよ。大
夫さんは大夫で、三味線は三味線でそれぞれ思い切り自分の芸をやっ
ていて、三つが集まって真ん中でぶつかって文楽という芸になる。合
わせにいくと面白くなくなってしまう。そこが文楽の面白さ。段取りではだめ
なんです。とくに私の師匠の簞助師匠は“段取り芝居”が大嫌いですから」

——そうすると舞台稽古は確認だけなんですね。

「そうです」



——合わせようとしないでも“息が合う”。それはすごいこと
なんじゃないですか。

「完全にピタッと合うということは、非常に少ない(笑)。人形は
三人遣いで、主遣い(首と右手)、左(手)、足と3人で遣う。そ
れに大夫、三味線でしょ、大変なんです。ところが、今日はやつ
た、という瞬間がたまにあるんです。それは素晴らしい瞬間で、
一度味わうとやめられません(笑)」

——得意な役、苦手な役は。

「手数の(動きの)多い役は得意です。やってても面白いです
し、手数を増やす事もできる。キチッとやれるのが条件です
けど。それから三枚目。性格が三枚目ですから、これ自然に

出来ます(笑)。若い町娘は苦手でした。技術的なものではな
しに気持ちが…。時代物のお姫さんですと型でやれるんです
が、世話ものの娘さんはね。子役と大人の女性の間の微妙な

年頃。微妙な色気。うちの師匠の娘はすごいですからね。そ
の左、足を何年もやってて出来ませんという訳にはいかない」

——出来て当たり前という…。

「足、一度やったら、もうその役は分かってないといけない。
そのくらい言われますからね」

——どうやって克服したんですか。

「40代で苦手を克服しようと決心しました。それで個人で受
けた仕事では苦手な役に積極的に挑戦しました。それで何年
か前に(桂川連理柵の)お半、非常に難しい役で一番苦手だっ
たんですが、その時にああでもない、こうでもないと考えて、

全力でぶつかった。そしたら思いのほかうまくいった。とくに
気持ちがね。それがきっかけで町娘が苦手でなくなったんで
す」

——なるほど。

「後は二枚目のじいっとしてる役ですね。(吉田)玉男師匠なん
か、じっとしてるので何かが出てくるんです。気持ちが伝わっ
てくる。ほんのちょっとのことで何かが違う。次の目標ですね」

聞き手／阿部聰 撮影／小林和幸

SPOTLIGHT INTERVIEW



INFORMATION

◆りゅーとぴあ文楽公演 2006年3月16日(木)
[昼の部] 14:00 「お染久松」野崎村の段～新版歌祭文より～、「勘進帳」
[夜の部] 18:30 「梅川忠兵衛」羽織落しの段・封印切の段～眞途の飛脚より～
「鶯娘」～花競四季寿より～
会場：りゅーとぴあ・劇場
料金：S席4,000円 A席3,000円 B席2,500円
昼夜5席セット券6,500円
※1/14(土)発売
▼ご予約・お問い合わせ
りゅーとぴあチケット専用ダイヤル 025-224-5521

第24回演奏会密着リポート!

1980年に設立。すでに四半世紀にわたり活動を続けている新潟市ジュニアオーケストラ教室。初心者でも基礎から指導し、オーケストラメンバーを育てるという全国的にもユニークなシステムでレッスンに取り組み、年間を通じて演奏会も行っています。今回は、小さなアーティストたちの1年の集大成でもある定期演奏会から、彼らの活躍ぶりをリポートします。

9月18日(日)に行われた定期演奏会の舞台はりゅーとびあコンサートホール。入場無料ということもあり、開演前から多くのお客様が訪れていました。

17日(土) すべて自分たちの手で。
もともと、メンバーそれぞれの自主性や積極性を重んじ、活動にあたっては大人の手を借りず自ら何でも行うというジュニアオーケストラ教室。それは月に2~4回行われる練習の段取りや各自への連絡だけではありません。演奏会の準備もすべて自分たちで行うのです。まずは、演奏会の前日に会場に集合し、練習も含めてセッティングを行い、明日に備えます。

18日AM10:00 ステージリハーサルで緊張も。

演奏会当日。開演は午後2時の予定ですが、メンバーたちは午前からいちはやくスタジオ入り。入念なリハーサルを行います。定期演奏会は初級のA合奏と上級のB合奏の2グループによるもの。めまぐるしいスケジュールの中、入れ替わりをしながらいいよステージリハーサルへ。先生の指導のもと、最後の音合わせなどに余念がありません。ちなみにA合奏のメンバーはB合奏に比べ、経験が浅いため緊張して萎縮してしまう子が多く、先生たちはリラックスしてのびのびと演奏するようにアドバイスを送ります。

18日PM1:30 ロビーコンサートに興味津々。

昼食をとって、ステージ衣装に着替えたら、そろそろ本番モードに突入です。本演奏に先立って、お客様への感謝の意を込めて、ホールホワイエでロビーコンサートが始まりました。メンバー数名が奏でる楽曲の出来映えは、他のメンバーたちも気になるところです。4曲、30分程のミニコンサートで、雰囲気も高まり、モチベーションもさらにアップしたようでした。

18日PM2:00 A合奏教室、全力投球の15分間。

いよいよA合奏教室の本番。緊張の舞台の扉が開きます。演奏する楽曲はビゼー:「アルルの女」組曲よりファランドールほかおよそ15分の真剣勝負が始まります。静まりかえったステージに音色が流れると、観客も聞き入り、あっという間に時間が過ぎています。そして演奏終了。楽器を手に再び楽壇に現れたジュニアたちの表情は、晴れ晴れとして達成感に満ちていました。

18日AM12:30 保護者会が大活躍。

A合奏・B合奏ともステージリハーサルを終えると、ようやくランチタイム。ここでは保護者会のみなさんが裏方として大活躍です。お弁当や飲み物の手配、緊張する我が子の事も心配になります。

18日PM4:00 たくさんの思い出がよぎる記念撮影。

定期演奏会の締めくくりは写真撮影です。メンバーは全員、さっきまで演奏していたステージで記念撮影。撮影を終えると、今年度で卒業というメンバーの中には、感極まって泣き出す姿も。今年は11名のメンバーが卒業を向かえます。これまでの思い出や達成感、そして卒業の寂しさ、様々な感情が一気に沸き上がってきたようです。

18日PM2:20 B合奏教室、プロ顔負けの1時間。

そして、新潟市ジュニアオーケストラ教室のトップクラス、B合奏教室による演奏の番へ。楽曲はラームス:大学祝典序曲 作品80と、サン=サーンス:交響曲第3番ハ短調作品78「オルガン付」の2つですが、休憩を挟んで1時間以上にも及ぶステージです。メンバーはそれぞれの先生から教えられた「楽曲のイメージを表現すること」に集中。見事なハーモニーを奏でました。演奏後にはアンコールも行き、観客の皆さんも想像以上の腕前に圧倒されたようです。

18日PM5:30 お疲れさまでした、そして来年も。

演奏会を終え、りゅーとびあを後にしたメンバーたちが向かったのは反省会と卒団式の会場でした。今回の演奏会の総評、それが感じたこと、そしてこの演奏会で巣立っていく先輩たちを笑顔で送り出します。ここではステージとはちがった普段の表情に戻り、一緒に時間を過ごした仲間たちと、おしゃべりに夢中。それぞれが腕を磨き、全員で力を合わせ、みんなで準備した定期演奏会。ジュニアたちの頼もしさに来年の活躍も期待できます。

Handmade Shop TOROWA (ハンドメイドショップ トロワ)

新潟市古町通四番町567 TEL 025-224-5675
営業時間 13:00~20:00 定休日 水曜日

りゅーとびあでコンサートやお芝居を見るなら「パートナーシップ」も楽しまなくちゃもったいない! 公演チケットを提示するだけでお得なサービスが受けられます。現在40店舗で実施中!
詳しく述べは <http://www.ryutopia.or.jp/ps> まで!

Partner Shop 5

特典
5%割引

14

15

IMPRESSION VOICE 感動の余韻

りゅーとびあ能楽堂シェイクスピアシリーズ・第三弾
冬物語—Barcarolle—
>> 2005.09.07 (水)-11 (日) 能楽堂

渡辺晃子さん(長岡市)左
妹(泰子)に誘われて初めて観に来ました。能楽堂も初めてでした。すごい迫力があって、どんどん引き込まれていきました。また観に来たいですね。

渡辺泰子さん(長岡市)右
演劇に興味があったことと、能も観てみたいと思っていたところに、このシェイクスピアシリーズがあつたので是非観たいと思いました。生の迫力ってやっぱりスゴイですね。また観てみたいし、自分も演劇をしてみたいと思いました。

加藤南(新潟市)
能楽堂シリーズは毎回毎回違ったアイデアが出てきて、いつも驚かされます。能楽堂のシェイクスピアで泣いたのも笑ったのも今回が初めてでした。次回はどんな作品になるのか今から楽しみです。

クラシックライヴVOL.3
「超・超絶技巧の世界」マリンバ&バーカッションアンサンブル
>> 2005.07.29 (金)-30 (土) 能楽堂

玉木みなみさん(新潟市)左
吹奏楽をやっています。今まで見たことがない楽器の演奏を生で聴くことができる貴重な場だったと思います。本当に素敵な演奏で、感動しました!!

岩崎光里さん(新潟市)右
吹奏楽部でトロンボーンをやってますが、前からバーカッションには興味があったので、今回は感動しっぱなしでした。知っている曲が多かったのでさらに楽しむことができました。次のライヴにも期待しています!

中野久美子さん(左)、加藤勢津子さん(中)、
田辺範子さん(右) 新潟市ほか
繊細さとダイナミックさを併せ持った、華麗なマレットさばきにうっとりしました。ナイフとフォークを使ったりズミカルな演奏には、思わず参加したくなりました♪

Triple Bill >> 2005.07.15 (金)-17 (日) 劇場

星沙代子さん(新潟市)左
高校のダンス部に入っているんですが、体の動かし方は本当にスゴイの一言です。みんなバラバラに動いているように見えても、きちんと統一感があって美しいし、何よりもカタチにとらわていないところが最高に素晴らしいと思いました。

阿部美紗子さん(新潟市)右
もう、言葉になりません。とにかく感動しました。最高です。

舟山英恵さん(米沢市)右
テレビで金森穰さんのダンスを観てとても惹かれて、ホームページで調べるうちにNoism04のことを知り、「SHIKAKU」から毎回観ています。穰さんのしなやかなダンス、すばらしいです。実はダンスの魅力を知って私も始めたのですが、やってみるとますますNoismのダンスの魅力を感じられるようになりました。今回の企画はとても新鮮。これからもぜひ続けてほしいですね。

小柳千絵さん(新潟市)
黒田さんへ。素晴らしい舞台をありがとうございました。ハンドバーカッション、よかったです!

ご協力ありがとうございました。
Thank you !

BACCO
osteria più cucina
オステリア BACCO
新潟市西堀通八番町1581
TEL 025-210-2552
営業時間 (昼)11:30~14:30
(夜)18:00~23:00
定休日 日曜

りゅーとびあでコンサートやお芝居を見るなら「パートナーシップ」も楽しまなくちゃもったいない!公演チケットを提示するだけでお得なサービスが受けられます。現在40店舗で実施中!詳しく述べは <http://www.ryutopia.or.jp/ps> まで!

RYUTOPIA ENTERTAINMENT CALENDAR 11・12/2005, 1/2006 今すぐチケットをゲットできる公演をチェック!!

■■■ 公演日 ■■■ 公演日時 ■■■ 演奏曲目など ■ C コンサートホール T 劇場 N 能楽堂 主催: 財団法人新潟市芸術文化振興財団

2005
11/3
(木・祝)
小曾根真&塩谷哲「PIANO DUO CONCERT」 C
全席指定5,250円 ▶ 11/3(木・祝) 18:30開演 共催: FOB企画

2005
11/9
(水)
**ジュエリー・オーケストラ・シリーズvol.2
ノルウェー・スタヴァンゲル交響楽団** C
■シベリウス: ヴァイオリン協奏曲 第3番
■グリーグ: ベール=ギュント第1組曲、第2組曲 他
スザンナ・マルッキ (指揮)
ベッカ・クーシト (ヴァイオリン)
S席7,000円 A席6,000円 B席5,000円
C席4,000円 D席売切
▶ 11/9 (水) 19:00開演
スザンナ・マルッキ

2005
11/19
(土)
第3回 能楽基礎講座 能楽入門④「能、そのリズム」 N
講師/山崎有一郎 (横浜能楽堂館長) 聞き手/阿部聰
全席自由1,000円 ▶ 11/19 (土) 14:00開講

2005
11/23
(水・祝)
**オルガンレクチャー&コンサート'05
「バッハ最前線」 第2回「18コラール集」の謎** C
■「18コラール集」より 来たれ、聖靈、主なる神 他
解説/小林義武 (文学博士・成城大学教授)
演奏/和田純子 (りゅーとぴあ専属オルガニスト)
全席指定2,000円 ▶ 11/23 (水・祝) 14:00開演

2006
11/25
(金)~
Noism05 <新作> T
演出・振付/金森穣
音楽/Ton That An 音響/山本浩一
衣裳/金森愛 照明/原田保 出演/Noism05
全席指定5,000円 学生2,500円
▶ 11/25 (金) 19:00開演 11/26 (土) 17:00開演
11/27 (日) 15:00開演

2005
11/30
(水)
りゅーとぴあ・1コイン・コンサート vol.20 C
[心を伝える楽器“声”]
■シューベルト: 野薔薇、ます ■R.ショトラウス: ツェチーリエ、ひそやかな誘い
■J.ショトラウス: “こうもり”より “チャルダッシュ” 他
出演/増田のり子 (ソプラノ)、浅井隆仁 (バリトン)、長町順史 (ピアノ)
全席自由500円 (チケットレス/当日会場にてお支払いください)
▶ 11/30 (水) 11:30開演

2005
12/3
(土)
冬の能楽鑑賞会 (宝生流) N
第1回 「能・半蔀」:高橋章
狂言「秀句傘」:山本東次郎 他
第2回 「能・紅葉狩」:武田孝史
狂言「八句連歌」:山本東次郎 他

S席4,000円 A席3,500円
学生S席2,000円 学生A席1,500円
(学生券はりゅーとぴあのみ取り扱い)
▶ 12/3 (土) ①13:00開演 ②16:30開演

2005
12/4
(日)
二兎社「歌わせたい男たち」 T
作・演出/永井愛
出演/戸田恵子、大谷亮介、小山萌子、中上雅巳、近藤芳正
S席5,000円 A席4,000円
▶ 12/4 (日) 14:00開演

2005
12/9
(金)
りゅーとぴあ・1コイン・コンサート vol.21 C
[新潟発若き才能 “チェロ”]
■ベートーヴェン: ユダス・マカベウスの主題による12の変奏曲
■ラフマニノフ: チェロ・ソナタ ■ショパン: 序奏と華麗なるポロネーズ
出演/横坂源 (チェロ)、鷺宮美幸 (ピアノ)
全席自由500円 (チケットレス/当日会場にてお支払いください)
▶ 12/9 (金) 11:30開演

2005
12/11
(日)
第34回 新潟定期演奏会/東京交響楽団 [古典派の重鎮] C
■ヘンデル: オラトリオ「メサイア」

大友直人 (指揮)、森麻季 (ソプラノ)、竹本節子 (アルト)、マルクス・ブルッチャー (テノール)、黒木純 (バス)、にいがた東響コーラス (合唱)、辻裕久 (合唱指揮)
S席売り切れ A席6,000円
B席5,000円 C席4,000円
D席2,000円
▶ 12/11 (日) 17:00開演

2006
1/18
(水)
オペラレクチャー&サロンコンサート T
vol.4 「制作」二期会オペラと藤原歌劇団率いる二人による辛口対談
■オペラコンサート/モーツアルト: フィガロの結婚きどころ
講師/中山鉄吾 (二期会オペラ振興会常務理事)
■ムソルグ斯基: 展覧会の絵 他
下八川共祐 (日本オペラ振興会常務理事)・作品解説/小鉄和広
全席指定1,500円 ▶ 12/18 (水) 19:00開演 ※11/5 (土) 発売

2006
1/29
(日)
能楽座 新潟公演 N
能「江口」撮影: 吉越研
第1回 ■狂言「蚊相撲」(大蔵流): 茂山忠三郎
能「江口」(觀世流): 觀世榮夫
第2回 ■狂言「鎌腹」(大蔵流): 茂山千之丞
能「小鏡治白頭」(觀世流): 梅若六郎
S席5,000円 A席4,500円
学生S席3,000円 学生A席2,500円
※学生券はりゅーとぴあのみ取り扱い
▶ 12/16 (金) 19:00開演 ※10/21 (金) 発売

2006
1/6
(金)
宮川彬良とアンサンブル・ベガ C
子どもたちへ贈る“アキラさんのお年玉”
全席自由・子ども (4歳から中学3年生までの方) 500円
付き添いの大人 (高校生以上) 1,500円
▶ 2006/1/29 (日) 第1回: 12:00開演 第2回: 15:30開演
※11/12 (土) 発売

2006
1/31
(火)~
りゅーとぴあ能楽堂シェイクスピアシリーズ N
「マクベス」
演出/栗田芳宏 出演/市川右近、市川笑也、藤間紫 他
全席指定 7,000円 (学生4,500円)
▶ 2006/1/31 (火)・2/1 (水)・2/2 (木) 19:00開演
2/3 (金・祝) 14:00開演 ※11/19 (土) 発売

りゅーとぴあチケット専用ダイヤル **TEL.025-224-5521**
受付時間/11:00~19:00 休館日/11/14・11/28・12/12・12/26・12/29~1/3・1/10・1/23



公演情報満載! 無料配布中
**「りゅーとぴあ
エンターテイメントカレンダー」**

●りゅーとぴあマガジン・りゅーとぴあエンターテイメントカレンダーは、りゅーとぴあ新潟市民芸術会館のほか、次の所にも置いてあります。
新潟市役所・地区事務所・支所・連絡所・公民館・コミュニティーセンター・みとびあ・朱鷺メッセ・新潟ふるさと村アピール館・新潟県立図書館・
新潟駅ネスパス (東京)・長岡リックホール・上越文化会館・三条中央公民館・柏崎市市民会館・小出郷文化会館 ほか県内・県外文化施設など
●次号のりゅーとぴあマガジンvol.4は2006年1月20日発行予定です。

～新潟グランドホテル 特別宿泊プラン～

**りゅーとぴあ
イベント宿泊
プラン**



能「江口」撮影: 吉越研



**りゅーとぴあまでの片道タクシーチケットと
コンサート終了後のお弁当が付いたお得な宿泊プラン!**

【料 金】
一泊 お一人様9,800円 (税・サ込)
※上記料金は宿泊代・タクシーチケット代・
松花堂弁当・朝食が含まれております。
※2名様利用の場合はツインルームも承ります。

【特 典】
会館までのタクシーチケットと
コンサート終了後に松花堂弁当をご用意。
※フロントでの引渡しとなります。また、翌日ご出発時の引渡し変更も承ります。

お問い合わせ

新潟グランドホテル ■ 025-228-6112 (ダイヤル)
〒951-8052 新潟市下大川前通3の町2230 e-mail front@ni-grand.co.jp



AGAPE store#11 BIGGEST BIZ
作:後藤ひろひと 演出:G2
出演:松尾貴史(キッキュ)
三上市朗(劇団N.O.P)
八十田勇一
松永玲子(ナイロン100℃)
菅原永二
坂田聰
篠原ともえ
栗根まこと(劇団☆新感線)
後藤ひろひと(piper)

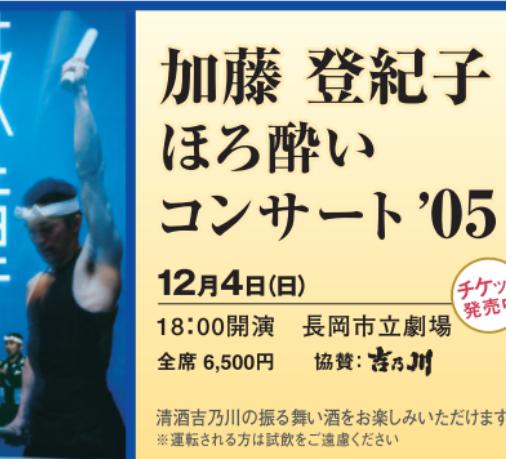
2006年2月4日(土)
りゅーとぴあ・劇場
18:00開演 **11/27(日)発売**
全席指定 ¥5,500(税込)
※未就学児童 入場不可



一青窈・CHEMISTRY・BIGGEST BIZ
先行予約方法
郵便振替にて、ご希望公演のチケット枚数分の代金+
発送手数料¥600を下記までご送金ください。
口座番号:00530-8-95016
加入者名:キヨードー北陸
通 信 欄:希望公演名、公演日、会場、希望枚数、
希望座種、「りゅーとぴあ・マガジン」
申込期間:**11/4(金) 消印有効**
※振込用紙は、郵便局備え付けの白地に青い文字の用紙をご使用ください。
※アンケート KCC(キヨードー北陸会員)にご入力の方は、そちらのご予約をご利用ください。
※お席の場合は会場全体で抽選になります。
※規定枚数をこえた場合、一般発売前に料金(¥600)を差し引きご返金させていただきます。
※複数公演をご希望のお客様は、公演ごとに振込用紙を分けてご送金ください。
※送料も各公演ごとに必要となります。
問)キヨードー北陸チケットセンター TEL:025-245-5100
(平日 11:00~18:00 / 土 10:00~17:00)



坂本龍一
PLAYING THE PIANO/05
悲願のピアノ・ソロ・コンサート決定!
クリスマス・イヴにあの名曲が鳴り響きます…!
12/24(土) 新潟県民会館 悲願のピアノ・ソロ
18:00開演 *年齢制限なし 4歳以上有料
S席 ¥7,800/A席 ¥6,800(税込) **11/6(日) 発売**
インターネット先行予約中!
<http://2455100.com>
※規定枚数に達し次第、受付終了



鼓童 十二月公演
生きる子カラ張る舞台へ
12月7日(水)8日(木)7日(金)
19:00開演 りゅーとぴあ劇場
S席 6,000円 A席 5,000円
チケット発売中



加藤 登紀子
ほろ酔い
コンサート'05
12月4日(日)
18:00開演 長岡市立劇場
全席 6,500円 協賛:吉川
チケット発売中



2002年チャイコフスキイ国際コンクール優勝
上原彩子
ピアノリサイタル
12月13日(火)
19:00開演
りゅーとぴあコンサートホール
全席 5,500円



コロッケコンサート
~ものまねを超えたものまね~
2006年3月11日(土) 12月10日(土) 発売!
①15:00開演 ②18:30開演 新潟県民会館 全席 5,500円
※開演時間は変更になる場合があります。

予告 エフゲニー・キーシンピアノリサイタル
2006年4月22日(土) **りゅーとぴあで開催決定!!**

電話予約・お問合せ TeNYチケット専用ダイヤル
025-281-8000 (平日9:30~18:00)

TONY
<http://www.teny.co.jp/>